

好学尚武

市立浦和高等学校野球部通信

発行者 鈴木 諭

発行日 R 8 . 9 . 1 4

発行ナンバー 1 3 0 1 号

練習試合の結果

9 日 (火) 対大宮南高校

第 1 試合 雨のため中止

1 2 日 (土) 対富士見高校

第 1 試合 雨のため中止

1 3 日 (日) 対浦和北高校

第 1 試合 3 対 5 敗退

第 2 試合 1 1 対 9 勝利

通算成績 2 3 勝 1 2 敗 1 分

祝・1300号

通信が1300号を迎えました。
我ながらよく継続しているな・・・と。

実は先日、こんなことがありました。

体験入部のノック時、キャッチャーのポジションに入った中3生（当然初対面）にこんなことを言われたのです。「本日、父や母は来ませんが、野球部通信を毎号楽しみにしていることを伝えるよう言われてきました」

嬉しいですね。

継続することの大切さ・・・

記録として残すことの大切さ・・・

気力・体力の続く限り（市高での勤務が続く限り）頑張りたいと思っています。

引き続きよろしくお願い致します。

ベテラン・中堅・若手

高校生のように、続いている3つの代で組織されているわけではなく、10代から40代？までの幅広い年齢層で組織されているプロ野球、各球団は、様々な年齢層の選手がそれぞれ力を発揮するようにしていかなければならないのだと思います（基本的に若手・中堅・ベテランに分けられると思います）。

何故そんなことを書いているかというと、愛する阪神の投手陣（リリーフ陣）が今シーズン、物の見事にそれを成し遂げているからです。

本来は中堅の選手が安定した成績を残すのが理想的なのだと思います（今年の阪神リリーフ陣であれば、石井・及川・桐敷投手あたりでしょうか）。ただ、このあたりの選手達がケガや不調とみるやベテラン陣を奮起させてしのぐ戦いを展開（岩崎投手やドリス投手）、その期間、若手投手の発掘等を怠らなかった（工藤・木下投手など）。危機管理能力という言葉で合っているでしょうか？次の手を常に考えたシーズンを送り、年間チャンピオンになろうとしています。今、中心となって投げている若手リリーフ陣、正直、ファンの私でもあまりよく知らなかったです。

高校生も（やや強引ですが）1年生が若手、2年生が中堅、3年生がベテランと考えると、すべての学年選手が実力を発揮できる環境づくり、組織づくりをしなければならないのだと思います。また、スポーツに限らず、職場環境なども同様ののだと思います（50代の私はベテラン）。

阪神より自分や自チームの心配をしろ！とは言わないで下さい。巨人と争う今シーズンは絶対優勝して欲しいです。頑張れ、阪神タイガース！